

第1回改定委員会議事概要

主な意見		対応	
1	計画改定の背景	◆ 上位関連計画は、現行計画の内容だけでなく、策定中の計画の議論の内容を反映したほうがよい。	内容を確認し、対応を検討。
2	板橋区の緑と水の課題	◆ 都市計画マスタープラン改定の際の住民アンケートで、他の項目と比較して、緑と水の環境が認知されていない結果があった。まず、緑自体の価値を周知していくことも計画の中に入れたほうがよい。	課題の再整理を行い、緑の価値を知ってもらうことを課題として整理する。
3		◆ 緑を「自分のこと化」が出来ているかが板橋区の上位概念としての問題である。そうしたことを整理した上で各個別分野での具体的な課題を整理したほうがよい。	緑の価値を区民に実感してもらうことを計画改定の1つの方向性として整理する。
4		◆ どういう風に緑の基本計画を変えたいのか伝わらない。考え方がどう変わるのかということを示して、次の骨子がどう変わるか見せてほしい。	計画改定の背景や庁内の課題出し、今回の意見をふまえ、方向性と課題について再整理する。
5		◆ 計画を改定したあとに緑に関わる人に届かないと意味がない。どのように緑の基本計画を活用してもらうか分かるようにする必要がある。	区民にも活用してもらう視点から計画の構成や記述を検討。
6		◆ 緑と水の課題は決して間違っていないが、全体を俯瞰したものであり、あまりにも抽象的過ぎる。現実には具体的な課題で悩んでいるので、もう少し具体的な課題を列挙していく計画のほうが良いのではないか。	全体的な課題をおさえつつ、現場での問題意識を反映する課題を再整理する。
7		◆ 今回の資料内容は、庁内の課題意識が強く感じる。地域の方が感じている課題をもう少し出して、地域の方と区での課題の共有が必要ではないかと思う。	
8		◆ 「自然環境との共生」というと、赤塚の崖線など自然度の高い場所の緑の話が強いと感じる。もっと身近な緑ということも考えるならば、「緑」という言葉がいいのではないか。	区民の身近な緑との関わりを構築していくことは重要であると認識しており、それを伝える課題整理をする。
9		◆ 民有地の緑を個人で維持してもらっていたことは感謝しつつ、他の場所に緑を植えていくなど、これからの若い人のためにどのように緑を更新していくかという考えがあってもよいのではないか。	緑の質の向上という側面で、緑の更新は重要であると認識しており、その点がより明らかになるように課題の見直しを行う。
10		◆ 緑を更新する考えも重要だと思うが、樹木が大きくなると、建物が建替えられて売られる際に切られてしまう。建て替え時に樹木が切られないようにする仕組みがあるとよい。	

主な意見		対応	
11	板橋区 の緑と水 の課題	◆ 樹木を何箇所か切られたという話があったが、切るだけの理由があるので、切った側の意見も理解してほしい。	地域の緑について知ること、 みどり のマネジメントを行うことを課題として整理する。
12		◆ 接道部に何本樹木を植える等、接道面の緑に対する施策があるとよい。	施策整理の中で検討する。
13		◆ 近隣でのコミュニティが不足しており、地域自治が弱く、町内会があっても組織率が低い。そういうことを考えていかないと、取組みは進まないのではないかと思う。	地域コミュニティによるみどりのマネジメントに関して課題を整理する。
14		◆ 民有地の緑がなくなることは仕方ないが、公有地の緑に関してはもう少しがんばってもらいたい。新しい緑をつくることも大事だが、既存の緑をいかに残せるかも重要である。生物の多様性の中でも、既存のものを残せるように考える必要がある。	新しい緑をつくるだけでなく、既存の緑を活用することも課題として整理する。
15		◆ エコロジカルネットワークから考えると、虫、鳥、蝶が来ないなど今の緑は明らかにおかしい。そういった面に目を向けさせる、周知させるという意味では教育が必要である。	緑の価値を知ってもらうことを課題の1つとして整理する。
16		◆ 農地の保全ということを課題に出しているが、2022年には生産緑地の最初の指定から30年経ち、農地が大きく減る可能性がある。そのことを前提に考えないといけない。	2022年の生産緑地の解除をふまえた課題整理をする。
17		◆ どの樹種がどこにどのくらいあるのかという資料がないと、分からない。どこに緑が必要なのかという点も議論が必要である。	データとして提示できるものは次回提供する。
18	緑に関 する区 民アン ケート	◆ アンケート結果に対して、区民の総意として区は責任をとらないといけない。声の大きい人の意見だけで、緑を本当に活用しようと考えている方たちの思いとは違う方向性になりかねない怖さがあるが、そうしたアンケート結果に対する区の責任に関してはどう考えているか。	項目が多くなりすぎているので、目的をはっきりさせて項目をしぼって精査し、区で責任がとれる内容とする。
19		◆ 区民の総意とする場合に、地域別計画を作るに当たり緑の少ない地域の人たちは回答しないかもしれない。アンケートの回答率に差がつくことを考えると、配布数、設問数は妥当か。	5地域に分け、その人口比率にあわせてアンケートを配布します。回収票があまりに地域によって偏っていた場合は、アンケート分析の際に対応を慎重に検討する。
20		◆ 地域別の緑の特性を洗い出したいのか。地域別にかかえている課題を掘り出したいということか。そもそも地域別計画をどうするか方針を考えていない段階で、アンケートを実施してしまうと設問設定が難しいのではないか。	地域の区分は今後詰めていく必要がありますが、本アンケートには間に合わないので、地域を細かく分類した調査シートを用意し、後々地域区分に合わせた集計ができるようにする。

		主な意見	対応
21	緑に関する区民アンケート	◆ 地域それぞれで緑のどのような価値をみなさんが共有しているかをアンケート等で示すことができれば、地域それぞれの緑の価値が分かるのではないか。	愛着のある緑等に関する設問を設定する。
22		◆ 本委員会における検討内容のどのあたりに、アンケート結果を反映させていくのか。	地域別計画に反映させることが一番の目的。
23		◆ 全部で 41 問あるが、これだけのものをどこまで回答してもらえるかも含めて検討したほうが良い。回収率が少ないと、緑への関心が薄いのではないかと思われるかもしれない。	設問や構成等を練り直し、2月のはじめにある改定部会の際に再度改定部会の委員に確認いただく。
24		◆ 公園や緑に愛着があれば落ち葉の問題や樹木を切る際に地域の問題として検討できる。そうしたことを区民に意識付けられるようなアンケートにできればよい。	愛着のある緑等を聞く設問や実感している困りごとなどを聞く設問を設定し、みどりを自分ごととして考えてもらえる設問、構成とする。
25		◆ これから先のことを考えるのであれば、防災に関して一言も触れていないのはどうか。せっかくだらなアンケートに防災の視点を入れるべきである。	緑の基本機能として防災の視点も重要であると認識しておりアンケートにも入れたが、それがより伝わるように設問を見直す。
26		◆ 緑に関わっている皆さんが実感している課題に関する設問があるとよい。	緑や公園に対して感じている課題を問う設問を追加する。
27		◆ 回答者の属性に関する設問は後ろにあったほうが答えやすいと思う。	ご指摘どおり、フェイスシートは最後にまわす。
28		◆ p4 の板橋の図の色区分はどのような基準で行っているか。川に関わるものからすると河川敷はしっかりと示してほしい。	ご指摘どおり、河川敷を図上に示す。
29		◆ 問 14 や問 15 が非常に重要な問いだと思うので、緑や公園に対する愛着や板橋らしさなどを聞くのに併せて、理由までぜひ聞いて欲しい。	理由も併せて聞く設問に修正する。
30		◆ 問 14 や問 15 で緑や公園に対する愛着や板橋らしさなどを聞いた後に、身近に感じる地域の緑に対する活用の仕方や感じ方などを聞いて欲しい。	日頃の緑とのふれあいや、緑のまちづくり活動について聞く設問を追加する。
31		◆ 問 14 や問 15 では、この公園のこの緑ということが分かるような設問を用意したほうがよい	全体の設問数を抑える中で対応を検討する。
32		◆ 問 17～21 の設問が「やったほうがいいですよ」という聞き方に感じる。こういった課題があるからこう言った取り組みをしたほうがよいという流れにしたほうがよい。	構成・設問を再度整理する。
33		◆ 公園の事を聞くときに、好きなところや嫌なところを聞かれたほうが答えやすいのではないか。思わず書きたくなるような設問設定が必要だ。	

主な意見		対応
34	◆ 公園の動的な内容を聞いているように感じる。しかし本質的な緑に対する関わりは眺める、たたくといった静的な活動だと思う。景観を良くすることの重要性は、そこにいたい、歩きたいという思いにさせる点にあり、公園を自分のものとしているか、自分の居場所となっているかということが一番重要である。そこから交流が始まって次につながる。アンケートのあり方をもう少し整理したほうがよいと思う。誰かしらがお金をかけてイベント等の企画をしないと、誰も使ってくれない公園は質が低いと感じる。	構成・設問を再度整理する。
35	◆ 問 23 以降の設問の順番について、多くの区民は大きな公園の近くに住んでいないので、大きな公園よりも身近な公園から先に聞いたほうがよいのではないか。	大きな公園と身近な公園を分けずに公園としての設問に修正する。
36	◆ 問 31 と問 33 の公園における禁止事項に関する設問は、答える側からすると、大きい公園と身近な公園で 2 段階に分けて聞かなくてもよい。回答する方がどこの公園を前提にしているか分かるようにすればよい。	
37	◆ 問 32 身近な公園における収益事業の設問が、ネーミングライツなど大きな公園と同じものになっているが、身近な公園では花壇を作りたい等、異なるものになるのではないか。	設問についても再度検討する。
38	◆ 問 38～40 プレーパークが最後に出てくるが、政策的な考えが見えるので、もう少し聞き方を工夫したほうがよい。	設問の言い回しや構成を再度検討する。
39	◆ 公園には規制が多いと言われる中で、それを助長するようなネガティブな問いが続いているように感じる。	設問や言葉の使い方、設問の順番等について再度検討する。
40	◆ パークマネジメントに関して、指定管理を想定すると集客や収益に関する項目となってくる。もう少し愛着に関する項目が必要である。	愛着等に関する設問を設定しつつ、公園を自分ごととして捉えられるような設問構成にする。